

第20回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路改築事業に関わる河川河口の環境アドバイザーミーティング

(令和6年8月19日開催)

主な意見・指摘事項と対応について

1. 第19回アドバイザーミーティング 指摘事項の確認

意見・指摘事項	対応
・意見なし	—

2. 令和6年度定期環境モニタリング調査（春季）の結果について（1/2）

意見・指摘事項	対応
<地形> ・「概ね変化がなかった」とあるが、分かりにくいで表現を見直すと良い。	・「令和5年度秋以降は概ね変化がなかった」等に修正します。
<底質> ・干潟調査で No. 11+80m の塩分濃度が高い理由は何か。	・採泥時の潮位が高くなつたため塩分濃度が高くなつたと考えられます。
・「その他の地点は台風前の状態に戻つた」とあるが、今日歩いてみて、少し地盤が高くなつて砂が溜まっているところと、シルトや粘土のままのところがあつて、空間的に不均一になつてゐるので、そういう特徴を踏まえた表現にした方が良い。回復・回復途上の傾向をみせているところと、シルト・粘土分が依然として高いところ、調査時期によつて変動が大きいところがあるので、そういうことを丁寧に説明すると良い。	・ご指摘の点を踏まえ、記載を修正します。
・水深が深いところは、どうやって採取したのか？	・採泥器（スミスマッキンタイヤ）で採取しましたので、その旨を記載します。
・結果について、「台風前に戻つた」や「回復した」という表現よりも、「3-C-2など粒径が変化している地点以外は、直近の変化がない」等に表現を見直すと良い。	・ご指摘の点を踏まえ、記載を修正します。
<鳥類> ・典型種とはどれか。	・アセス時にシギ、チドリ、カモ、カモメ類が典型種に設定され、以降毎年記録しております。
・令和6年度春調査で、カモ類（特にスズガモ）が少ない理由について、全国的な傾向なのか、調査のタイミングによるものなのか確認したほうが良い。	・カモ類が少ない理由について、全国的な傾向なのか、調査のタイミングによるものなのか確認して、その結果を記載します。
・飛行高度については、シギ・チドリが橋の下を通過しているのは良い傾向である。	—
・「造成後」は新たに造成したものと解釈される可能性があるので、「埋め戻し後」に訂正すると良い。	・「造成後」を「埋め戻し後」に修正します。
<底生生物> ・「ハマグリ属については、ハマグリ、チョウセンハマグリ、シナハマグリの可能性がある」とあるが、多摩川河口でチョウセンハマグリは確認されていないので「ハマグリ属については、ハマグリ、シナハマグリ等複数種の可能性がある」としたほうが良い。	・「ハマグリ属については、ハマグリ、シナハマグリ等複数種の可能性がある」に修正します。
・「ヤマトシジミの生息環境として好適ではない状態が続いている」は、その下の「まとめ」に記載しているように、稚貝の供給が少なくなったことが主な原因と考えられるので、表現を見直すと良い。	・ご指摘の点を踏まえ、記載を見直します。

第20回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路改築事業に関わる河川河口の環境アドバイザーハイブリッド会議

(令和6年8月19日開催)

2. 令和6年度定期環境モニタリング調査（春季）の結果について（2/2）

意見・指摘事項	対応
<p><底生生物（続き）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムロミスナウミナナフシとスナウミナナフシ属が別種のように記載されているが、スナウミナナフシ属ではムロミスナウミナナフシしか確認されていないのであれば、ムロミスナウミナナフシに統一した方が良い。また、「カワゴカイ属」はヤマトカワゴカイに統一したほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スナウミナナフシ属はムロミスナウミナナフシに統一します。「カワゴカイ属」はヤマトカワゴカイに統一します。
<ul style="list-style-type: none"> ・「生息環境が徐々に回復している」という表現は、以前の生息環境が悪かったと捉えられてしまう可能性がある。実際は、生息環境が変わったというよりも、内部的な生産量の問題と思われる所以、「定常状態に戻りつつある」などに表現を見直すと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の点を踏まえ、記載を見直します。
<ul style="list-style-type: none"> ・「過年度と同様に多毛類が優占した」とあるが、今回はスピオ科やカワゴカイ属よりもミズヒキゴカイ科が目立っている。 ・ミズヒキゴカイ科は、粗い砂地であるにもかかわらず横浜の海の公園で増えている。 ・底生生物は東京湾全体の変動があり、多摩川河口の環境の変化で説明するのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> —
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトシジミの減少については、中州の減少に伴って稚貝の供給が少なくなったことが主な原因と考えられる。したがって、現在の中州の底質環境が良くなつても、中州の面積が増えなければ、ヤマトシジミの増加は期待できないと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の点を踏まえ、記載を見直します。
<p><ヨシ群落の底生生物></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゴカイ綱は乏しい傾向がみられた」とあるが、本日現地を見たところ生息環境がパッチ状に拡がっていて、（橋梁下とそれ以外で）大きな差はなかった。橋梁が底生生物に与える影響は見られなかつたというまとめで良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の点を踏まえ、とりまとめます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ群落の写真にある道が人の踏圧によるものならば、橋梁の影による影響と誤解される可能性があるので、写真を差し替えたほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋梁下を釣り人などが通過しており、そこが獣道のようになつてきました。誤解のないように、写真を差し替えます。

3. その他（1/2）

意見・指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・アセス時の予測結果（予測対象とした年度）とモニタリング調査期間は厳密には合わないと思われる所以、可能であれば年度を記載するなどして分かりやすくしたほうが良い。また、アセス時調査、工事中調査、供用時調査という区分が表と図で異なるため、誤解を招かないように表現を見直すと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の点を踏まえ、とりまとめます。
<ul style="list-style-type: none"> ・「自然回復」という表現は、一時的にダメージがあつたという印象を与えるので、「自然変遷」等に表現を見直すと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の点を踏まえ、記載を見直します。
<ul style="list-style-type: none"> ・鳥類は台風による環境変化が生じた項目に区分されているが、台風によって鳥類の採食地や休息地への影響があつたとは思われないので、区分を見直すと良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘の点を踏まえ、とりまとめます。

第20回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路改築事業に関する河川河口の環境アドバイザーミーティング

(令和6年8月19日開催)

3. その他 (2/2)

意見・指摘事項	対応
<ul style="list-style-type: none">・橋梁が鳥類へ与える影響をみるには、工事完了時前後の比較ではなく、工事中の上部工の設置前後、もしくは橋脚設置完了時の前後で比較した方が良い。	<ul style="list-style-type: none">・ご指摘の点を踏まえ、とりまとめます。
<ul style="list-style-type: none">・「事業影響評価書（仮称）」の名称について、通常のアセスでは「評価書」は工事前にまとめるものであり、工事後のモニタリング調査結果は「事後調査報告書」と呼ぶので、違和感がある。市で検討して名称を決めているならばそれでも構わないが、見直すと良い。	<ul style="list-style-type: none">・名称については、再度検討します。
<ul style="list-style-type: none">・通常のアセスに準じるなら、「工事中」と「供用後」の区分となり、例外的に台風の影響を考慮して考察すれば整理しやすい。アセス用語を用いるのか、独自の定義とするかについては、検討したほうが良い。	<ul style="list-style-type: none">・とりまとめについては、再度検討します。